

前会長の瀧川さんからバトンを受け、今年度より当協議会の会長を務めることとなりました。

私自身生きものの専門家ではありませんが、20余年にわたり名古屋市、愛知県内を中心に、放置された里山林の保全再生活動に携わってきました。既存林を抱える公園緑地では、市民参加による森づくり活動を行政機関との協働で進めることとなりますが、市民の関心を集め理解を深めながら、里山林をあるべき姿へと植生管理するハード面とともに、これらを進めるための基盤として行政機関との協働の仕組みづくりなどソフト面での対応も重要です。

なごやの生物多様性保全活動の推進もまた、市民主導による「なごや生物多様性保全活動協議会」と、市の行政機関である「なごや生物多様性センター」の二人三脚で進めていく仕組みになっています。しかし市民セクター自体、一枚岩とは言えません。名古屋の自然環境保全に関する合意形成は実に多様な意見を持つ市民関心層、学識者、研究者、そして最も重要で多数派の無関心層がその対象となり、それぞれの専門家たちの意見もまた多様です。

2005年愛知万博の年の8月、名古屋で市民400名の参加によって同時多点気温測定調査が行われました。この市民ムーブメントはその後多様な市民層を巻き込みながら、名古屋の生息生物調査(2006～現在)、名古屋・東山新池ため池調査(2007)へと展開を見せながら、2008年からの「なごや生物多様性センターに関する検討」へと収斂していきました。この間、実に数多くの勉強会、議論、実践活動が重ねられましたが、「名古屋・愛知に自然史博物館を!」「生物多様性センターを名古屋に!」という、当地域の自然史に関する知の拠点づくりに対しては、皆さん全く異論が無く、異口同音に強く望まれている点で完全に一致していたことが印象的でした。私はこの一点で、名古屋・愛知の自然環境に関わるすべて

の人々は結集できると確信しました。

2008年8月の市民提案から始まった「なごや生物多様性センター構想」は、多くの面談、会合、勉強会、実践活動、シンポジウムを経て、COP10(生物多様性条約第10回締約国会議)の翌年である2011年5月に「なごや生物多様性保全活動協議会」の発足を迎え、同年9月に「なごや生物多様性センター」の設立へと結びつきました。そしてこれは、「名古屋・愛知に自然史博物館を」に向かう最初のステップであると思うのです。

しかし、近年の財政状況や自然史に対する市民の関心のレベルを見ると、この道のりは決して容易で無いことは想像に難くありません。

2009年度に開催した勉強会の中で、大阪市立自然史博物館の設立までの経緯を学芸員の佐久間さんに伺う機会に恵まれました。ここで学んだことの一つは、大阪市立自然史博物館も設立までに長い道のりがあったこと。そして、博物館活動にとって、これを支える市民サイドの支援や活動が原動力であるということでした。

全国各地の自然史博物館の存続や経営が決して順風満帆でない状況に鑑みても、私たち協議会は、名古屋市民に対して、生きものへの親しみや関心をもつ魅力的な機会を提供し、生物多様性保全の重要性を普及・啓発し続けていかなければなりません。このような状況づくりとその維持が無ければ、名古屋・愛知に自然史博物館が実現する、その好機を捉えることはできないかもしれません。

多くの自然環境や生きものファン、市井の専門家、学術研究者、関係行政機関の方々たちとともに、このベースを守り成長させていきたいと思えます。

市民の皆さん、身近ななごやの自然や生きものとふれあいましょう。そして、なごや生物多様性保全活動協議会の活動に奮ってご参加頂きますようお願い致します。

■ なごや生物多様性保全活動協議会・なごや生物多様性センターの発足までのあゆみ



●2005.08.07 名古屋気温測定調査 2005



●2006.02.26 名古屋気温測定調査報告会



●2006.08.05 名古屋の生息生物調査(灯火採集)



●2007.02.04 自然を生かしたまちづくりシンポジウム準備会



●2007.03.31 自然を生かしたまちづくりシンポジウム



●2007・05・10 名古屋・東山新池ため池調査実行委員会



●2007.07.28 名古屋・東山新池ため池調査



●2008.03.26 東山新池調査と提言・副市長面談



●2008.08.27 なごやの里山とため池の自然展



●2008.08.29 環境局長面談



●2008.12.15 生物多様性センター検討会



●2009.05.21 市民提言・市長面談



●2009.10.30 生物多様性センターに係る勉強会 1



●2009.11.26 生物多様性センターに係る勉強会 2



●2010.03.28 シンポジウム生物多様性保全における拠点機関の役割

なごや生物多様性保全活動協議会について

はじめに

名古屋市には東部丘陵地を中心に 111 箇所ものため池が現存しています。しかしながら、都市農業の衰退により、ため池の主な役割が「利水」から「治水」に変化しました。そのため、人とため池との係わりが希薄化したことや、外来種の侵入によって在来の生きものが減少したことで、ため池生態系の劣化が進んでいると言われています。

COP10 開催決定を契機に、平成 20 年度から 3 年間で、「名古屋ため池生物多様性保全協議会」を設立し、地域住民・市民団体・行政が協働でため池の生物調査や保全活動を行ってきました。

平成 23 年度からは、ため池に限らず他の生態系まで対象範囲を広げるとともに、侵略的な外来種の防除に力を入れるなど、活動内容を拡充するため、「名古屋ため池生物多様性保全協議会」の組織体制と人材を拡充し、「なごや生物多様性保全活動協議会」（以下「協議会」といいます。）を平成 23 年 5 月 15 日に設立しました。

協議会の設置目的は、「なごやに生息・生育する生物及びその環境を継続的に調査し、生物多様性の現状を把握するとともに、外来種防除などを通し、身近な自然の保全を実践する」ことです。

協議会の活動

協議会は、設立目的に基づき、市民・専門家・行政の協働で生物多様性に関する調査・保全活動を実施しています。

活動を支える事務局と拠点は「なごや生物多様性センター」が担っており、平成 23～25 年度の活動は、環境省からの交付金（環境省生物多様性保全推進支援事業）および名古屋市からの負担金により、平成 26 年度の活動は、一般財団法人セブン - イレブン記念財団の助成金および名古屋市の負担金により、平成 27 年度の活動は、名古屋市の負担金のみにより、事業を実施しています。

協議会が平成 27 年度に取り組んだ主な調査・保全活動は、アライグマ・ミシシッピアカミミガメ・園芸スイレン・オオキンケイギクなどの外来種対策、市内のため池・水路・名古屋城などにおける生物調査と外来種防除、アンケートによるヒキガエル調査を行いました。

また、身近な自然や生きものに一層の関心をもつていただく機会として、7～8 月に小中学生を対象とした「なごや生物多様性サマースクール」を、10 月には地域の方々に調査に参加してもらい「カマキリ類の一斉調査」を実施しました。

調査・保全活動を通して得た結果については、収集・蓄積し今後に生かすために、生物情報モニタリングデータベースの構築を進めています。

協議会の取り組みを発信する場として、平成 28 年 4 月 29 日に活動報告会を実施します。

協議会の構成

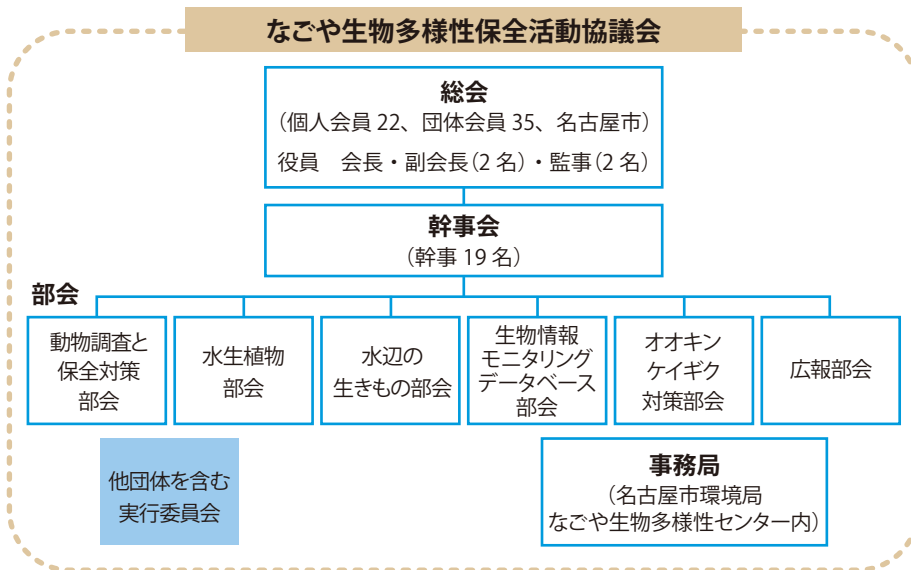
協議会は、平成 28 年 3 月末現在、22 の個人会員、35 の団体会員、名古屋市で構成しています。1 年間の事業計画や事業報告については、総会にて議決します。

また、役員（会長・副会長 2 人・監事 2 人）と幹事（19 人）を置き、幹事会にて運営に係る事項について協議しています。

事業の実施にあたっては、活動分野ごとに部会を設置し、部会ごとに調査内容・方法・日程・調査者等の計画を作成し、実施しています。事務局は、各部会や実行委員会の実施する調査や会議、イベントについて、準備、連絡調整等の役割を担っています。

市民の方を対象に、協議会が実施する調査やイベントなどへご参加いただく仕組みとして、「なごや市民生きもの調査員」を募集しています。ご登録いただいた方へは、イベントなどの募集情報を随時案内しています。（平成 28 年 3 月 16 日現在・登録者数 712 名）

● 平成27年度協議会の組織・構成



● 部会一覧

- 動物調査と保全対策部会
- 水生植物部会
- 水辺の生きものの部会
- 生物情報モニタリングデータベース部会
- オオキンケイギク対策部会
- 広報部会

● 幹事一覧

(平成27年2月末現在・敬称略)

氏名	所属等	備考
石原 則義	愛知守山自然の会／名古屋自然観察会	
大塚 徹	市内外来種及びため池調査	
大沼 淳一	水質	
小木原 吏香	なごや環境大学実行委員会	監事
小菅 崇之	水生植物	
柴田 良成	中部蜘蛛懇談会	
滝川 正子	なごや東山の森づくりの会	
津田 美子	名古屋市立長良中学校	
新實 豊	日本野鳥の会愛知県支部	
野中 賢輔	なごや外来種を考える会	
橋本 啓史	名城大学農学部生物環境科学科助教	
長谷川 泰洋	もりづくり会議	
堀田 守	なごや森づくりパートナーシップ連絡会	監事
間野 隆裕	名古屋昆虫同好会	副会長
眞弓 浩二	雑木林研究会	会長
安田 和代	名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち	
矢部 隆	環境局なごや生物多様性センター長	副会長
榊原 靖	名古屋市環境科学調査センター主任研究員	
早川 雅夫	名古屋市環境局環境企画部主幹 (生物多様性推進担当)	

なごや生物多様性保全活動協議会について

● 会員一覧

(平成 27 年 3 月末現在・敬称略)

● 団体会員

氏 名
相生山緑地自然観察会
愛知守山自然の会
雨池ホタルの会
荒池ふるさとクラブ
伊勢・三河湾流域ネットワーク
大高緑地湿地の会
尾張サンショウウオ研究会
かんでら monzen 亭「笠寺ミツバチプロジェクト」
特定非営利活動法人 環境市民 東海事務所
白玉星草と八丁トンボを守る島田湿地の会
雑木林研究会
中部蜘蛛懇談会
なごや外来種を考える会
なごや環境大学実行委員会
名古屋昆虫同好会
名古屋自然観察会(愛知県自然観察指導員連絡協議会名古屋支部)
名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち
名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科生物多様性研究センター
名古屋市立鳴子台中学校科学部
なごやの森づくりパートナーシップ連絡会
特定非営利活動法人 なごや東山の森づくりの会
特定非営利活動法人 日進野菜塾
日本カメ自然誌研究会
日本野鳥の会愛知県支部
花水緑の会
隼人池を美しくする会
特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会
三河淡水生物ネットワーク
名城大学理工学部環境創造学科齊藤研究室
名城大学理工学部環境創造学科谷口研究室
名東自然観察会
もりづくり会議
守山リス研究会
矢田・庄内川をきれいにする会
山崎川グリーンマップ

● 個人会員

氏 名
飯尾 俊介
伊東 英幸
御池 俊輔
太田 貴大
大塚 徹
大沼 淳一
川瀬 基弘
小菅 崇之
澤村 壽
高木 順夫
高山 博好
津田 智
津田 美子
土山 ふみ
研谷 厚
富田 啓介
橋本 啓史
伴 知幾
松沢 孝晋
村上 健太郎
守谷 茂樹
森山 昭彦

● 名古屋市

なごや生物多様性保全活動協議会事務局を、なごや生物多様性センター内に置く。

● 通常総会の開催

開催日	主 な 内 容
5 月 10 日	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成 26 年度事業報告について 2 平成 26 年度決算報告について 3 平成 26 年度会計監査報告について 4 平成 27 年度役員選出について 5 平成 27 年度事業計画(案)について 6 平成 27 年度収支予算(案)について

● 幹事会の開催

回	開催日	主 な 内 容
第1回	5月20日	1 各部会報告等 (1) 動物部会 (2) 水生植物部会 (3) 水辺の生きもの部会 (4) 生物情報モニタリングデータベース部会 (5) オオキンケイギク対策部会 (6) 広報部会 (7) 会員活動支援について 2 今後の協議会活動について 3 平成27年度幹事について
第2回	6月25日	1 各部会報告等 (1) 生物情報モニタリングデータベース部会 (2) オオキンケイギク対策部会 2 一斉調査について 3 報告書について 4 今後の協議会活動について
第3回	7月23日	1 一斉調査について 2 今後の協議会活動について
第4回	8月27日	1 一斉調査について 2 定例会について 3 部会報告等 (1) 生物情報モニタリングデータベース部会 4 センターまつり・ユースひろばについて
第5回	9月24日	1 定例会について 2 報告書について 3 塚ノ杵池のドローンによる空中撮影について
第6回	10月22日	1 一斉調査について 2 平成27年度の予算執行状況について 3 平成28年度の部会事業について 4 平成28年度の助成金交付について 5 平成27年度協議会活動報告書について 6 今後の協議会活動について
第7回	11月26日	1 平成28年度予算について 2 平成28年度助成金について 3 報告会・総会について 4 池干しに係る留意事項について 5 センター敷地内にある水生植物の今後について
第8回	12月24日	1 第7回幹事会の議事内容について 2 助成金事業について 3 報告会・総会について 4 平成28年度事業について 5 市民普及版「なごやの生きもの対応ガイドライン」(仮称)の作成について
第9回	1月28日	1 報告会について 2 謝金について 3 平成27年度予算の執行状況について 4 平成28年度予算について 5 平成28年度定例会について 6 なごや環境学習プラン(案)について 7 センター敷地から天白川水系水辺へのアプローチルート設置について
第10回	2月25日	1 平成28年度事業計画(案)・収支予算(案)について
第11回	3月24日	1 平成28年度事業計画(案)・収支予算(案)について 2 会員活動支援について 3 平成28年度助成金について